



My Favorite Things

私のお気に入り

～#市長が訪ねてみたい～

第29回

サンフレッチェ広島
加藤 陸次樹

7月、嬉しい知らせが届きました。セレッソ大阪で活躍する加藤陸次樹選手がサンフレッチェ広島に移籍するというニュースです。

加藤選手はサンフレのユースに所属し、トップチームへの加入を目指しながらも叶わず、中央大学へ進学した後、2020年にJ2のツエーゲン金沢でプロ入りを果たしました。翌年にはJ1のセレッソへと移籍し、2年連続でチーム最多得点を挙げ実力を示した人物です。サンフレでプレーしたいと願い続け、ついにその夢を実現させました。

「サッカーに明け暮れた苦しかった高校3年間ですが、安芸高田市の方々の優しさに支えられました。今の自分があるのも、充実した安芸高田市での生活があったからです。」と加藤選手は振り返ります。サンフレの地元として改めて誇らしく感じました。

昨年のルヴァンカップ決勝では、加藤選手と同じユース出身の荒木選手、大迫選手が敵味方に分かれ戦う姿に胸を打たれました。今、そんな彼らが再会し、共に戦っています。安芸高田から生まれた熱いドラマをお見逃しなく!!



背番号51/FW/178cm/69kg
1997年8月6日生まれ



ユース時代の3年間は
荒木選手や満田選手らと重なる

鳥獣対策 コンサルタント

株式会社BO-GA 市川 哲生さん



正しい
鳥獣対策
教えます



里地に出没するイノシシの親子

第6回 | イノシシの捕獲は、計画的に。

イノシシ被害は、山にいるたくさんのイノシシ全てが関与しているのではなく、一部の個体が繰り返し悪さをして発生します。山の餌だけを食べるイノシシは、1頭当たり数百メートル程度の広さを動き回りますが、里地に繰り返し出没するイノシシの行動圏はどんどん狭くなり、数十メートルまで狭くなるという報告もあります。

数十メートルしか動かないイノシシは、山に帰らず放棄されたやぶなどで眠り、再び田んぼなどに出てくるのです。皆さんが丹精込めて作る農作物は、イノシシにとってあまりにもおいしいのでしょう。厄介なことに、こうしたイノシシが子どもを産むと、その子どもは栄養満点。冬を着実に生き延びます。こうやって悪さをする犯人が里地にあふれている…。だからこそ有害捕獲は母と子を一網打尽にすることが重要なのです。

関地域営農課 農地利用係 ☎お太助フォン 47-4021

あきたかたMeet-up

6/22(木)開催

#若手就農者と語ってみる

市の若手農業者で作る「ひろほく農考会」のメンバー20人が集まり、Meet-upを開催しました。3人の事例発表を基に、地域農業について語り合いました。



事例発表 1 ハラダファーム本多 代表取締役 本多 正樹さん

福祉関連の職業から農業に転職。現在は経営者として収益率の確保、次世代の担い手づくりが課題だと感じています。近年は、農産物以外で収益を上げる取り組みについて検討しています。

Q 事業が軌道に乗ったタイミングは?

〈本多さん〉3年目。事業継承が終わったタイミングで、仕事の効率化を独自のやり方で確立できた。

Q:農業を楽しいと思いはじめたのは就農してどれくらい経ってからですか?

〈本多さん〉「やらされてる」から「やってる」に変わった時。今後どうしていくか方向性が見えて前に進むことができた。



事例発表 2 LABI(ラビ) 代表取締役 岡田 裕樹さん

大学に進学後、起業し農業をすることを決意しました。卒業後は友人2人と会社を設立。今は栽培技術の安定化による収益の向上に日々試行錯誤しています。友人や従業員を呼び込む体制を作るため、市と連携し空き家バンクの仕組みをうまく活用したいです。

Q 就農後、情報系の大学を卒業して役立ったことは?

〈岡田さん〉スマートフォンなどでの生産管理や、これから必要となるスマート農業関連の根本的なことが理解できること。

Q 離農を考えることもあった中で、今も農業を続けている理由は?

〈岡田さん〉成果や作業の効率が全て数字として見える事。これがやりがいにつながっている。



事例発表 3 (株)ヒロマサ 従業員 大室 耕作さん

農業技術大学を卒業後、果樹に興味があり県の農業技術センターに勤務。その後(株)ヒロマサに就職し、現在は現場責任者として種まきの計画から栽培管理まで行っています。従業員と協力し、どうすれば安定出荷につながるかということを日々考えています。

Q 就農当初と最近の考え方の違いはあったか?

〈大室さん〉5～6年は技術習得で手一杯だった。従業員が増えるにつれ、自分がリーダーシップを取らないといけないと考えるようになってから考え方が変わった。

〈市長コメント〉

今回、若手就農者の皆さんと意見交換ができて非常に有意義でした。ぜひ継続してこういった場を設けたいと思います。農業分野においては主に新規就農者への支援の充実が必要だと考えます。集まった意見を踏まえ、市として有効な支援策の検討を行います。

関秘書広報課 秘書広報係 ☎お太助フォン 42-5627